



お客様情報



埼玉県南埼玉郡宮代町

<http://www.town.miyashiro.saitama.jp/>

宮代町は、昭和30年須賀村、百間村が合併してできた町。町の名は、百間村の総鎮守姫宮神社の「代」と、須賀村の総鎮守である身代神社の「代」をそれぞれとって現町名となった。東武伊勢崎線が町を縦断しているという好条件のもと、都心へ通勤するベッドタウンとして昭和40年代以降人口が急増し、現在の人口は約3万4000人。ホワイトタイガーで有名な東武動物公園、宮代巨峰やみやしろ餃子などの名産品、さらに宮代町コミュニティーセンター「進修館」はコスプレ愛好家が集まる場所としても有名。宮代町では、このような情報を同町のサイトから発信するなど、町おこしにつながる取り組みを積極的に行っている。

埼玉県南埼玉郡宮代町

最新版に刷新したLotus Notes®の機能を生かし
住民向けサービスの向上を図りたい

都心から電車で40～50分程度と東京近郊にありながら、自然豊かな里山の趣きを残している宮代町の町役場では、10年以上前からIBM® Lotus Notes/Domino (以下、Lotus Notes) を活用しています。しかし、バージョンも古く、システムの限界にきていたため、このほどシステムを全面的に刷新しました。リプレースに至った背景と導入の経緯や工夫した点、今後の展開などについて、埼玉県南埼玉郡宮代町の菅原隆行氏と、同社のLotus Notes活用を支援する大塚商会の丸山義夫氏に話を伺いました。

意欲的に情報発信に取り組み、 日経インターネットアワードを受賞

— 宮代町は、かなり前からLotus Notesを利用していると伺いました。いつごろからどのような用途で利用しているのでしょうか。

菅原 平成10年(1998年)に会議室や公用車の予約システムの開発を外部に依頼したのですが、そのベースになっていたのがLotus Notesでした。当初はLotus Notesが使われているとは知りませんでした。でも勉強してみたら自分たちでいろいろなことができそうであることがわかり、それからは独学で社内の承認申請システムなどのアプリケーションをLotus Notesで作成しました。

当時は教えてくれる人もいなかったので、仕事の合間を縫って担当者2人でまったくの独学で始めました。これが職員に好評で「あれも作ってくれ、これも作ってくれ」と。気付いたらアプリケーションの数が400本を超えてしまいました。

— 400本ですか。また「独学」というところがすごいですね。使い方自体も変化してきたのでしょうか。

菅原 一番変わったのは平成14年(2002年)です。宮代町では、平成10年から、町や宮代の町づくりに興味を持ってくれる人を増やすため、



宮代町総務政策課
情報管理室長G
情報担当 主査
菅原 隆行氏



大塚商会

パートナー企業

株式会社大塚商会

創業:1961年7月17日(1961年12月13日、株式会社として登記)
 資本金:103億7,485万円
 売上高:4,299億2,700万円(2009年連結)
 従業員数:6,778名/連結子会社を含めた従業員数8,278名(2009年12月末現在)
<http://www.otsuka-shokai.co.jp/>

システムインテグレーション事業、およびコンピューター、複写機、通信機器、ソフトウェアの販売、受託ソフトの開発などの請け負い、またサービス&サポート事業、サプライ供給、保守、教育支援など幅広く事業を展開。IBMのパートナー企業として、IBM Lotus Notes/Dominoの販売・サポート業務に力を入れており、実績と総合力で信頼を得ている。

メールマガジンの発行や、ホームページ上での情報発信などの取り組みを積極的に行ってきました。ただ、もっと頻繁に情報を発信するには、システム担当者が取りまとめて発信するという従来のやり方では限界があると感じていました。そこで、国の補助金を受けて、本庁舎と各公共施設のネットワークを整備したのを機に、ユーザー・アカウントを全職員に配布し、Lotus Notesを利用して各部署からダイレクトにホームページ上に情報を公開できるようにしました。

外部向けの情報を切り分けたり、公開を許可する責任者の意識を変えてもらうといった難しさはありましたが、こうした情報発信活動は外部からも評価され、2002年の「日経インターネットアワード」を受賞しました。

長年培われたLotus Notes文化を 継続的に発展させる道を選択

——まさに模範的な発展を遂げた、という感じだったんですね。

図 宮代町のホームページ



宮代町では、平成10年から、町や宮代の町づくりに興味を持ってくれる人を増やすため、ホームページ上での情報発信などの取り組みを積極的に行ってきた。それが評価され、2002年に「日経インターネットアワード」を受賞している。

今回の最新版へのリプレースも順調に進んだのでしょうか。

菅原 リプレースに踏み切ったのは、Lotus Notesの利用シーンが増えてサーバーが負担に耐えられなくなっていたことと、Lotus Notesのバージョンが5.0と古かったからです。実は、スムーズにLotus Notesの最新版に移行を決定したわけではありません。バージョン5.0から今の8.5に移行するには、バージョンが違いすぎることによるリスクもありましたし、他のツールも検討してみました。ただ、大塚商会の丸山さんからの提案もあって、あらためて検討した結果、Lotus Notesの最新版への移行を決めました。

丸山 他のツールへの移行も検討したいという話も聞いていたのですが、これだけLotus Notes文化が職員全体に浸透しているのに、Lotus Notesを離れるのは危険だと思いました。アプリケーションの数だけでなく、Lotus Notesに精通した担当者が何人もいることを重要視しました。最新版に移行することで、不便さを解消できるので、よりいっそうLotus Notes以外に変えることのメリットは感じられなかったですね。Lotus Notesは、最初は乗りにくくても慣れればどこにでも行けるマウンテンバイクのような良さがあります。そこが大事だと思いました。

職員にリプレースを意識させずに システムの中身を入れ替える

——そうした流れから、大塚商会さんにリプレースを依頼したのでしょうか。他社との比較もあったのでしょうか。

菅原 5社ほどのベンダーさんからご提案をいただきましたが、総合的に判断して大塚商会さんをお願いしました。特に大きかったのは、こちらの質問に的確に答えてくれたことです。これなら大丈夫だろうと確信しました。

丸山 コンペでは通常、実績をアピールしますが、実際にリプレースに取り組むメンバーをコミットしてアピールしました。そこが評価されたんだと思います。提示された予算枠の中で、将来の拡張性を作り込んだシステム構成を提案しました。

——リプレースにあたって苦労した点はどんなところでしょうか。

菅原 職員にリプレースを意識させないで移行させたところですが。多くの業務がLotus Notes上で進められていますから、使い勝手が変わって業務に支障が出ることだけは避けなければなりません。そのため、クライアントには古いバージョンと似ているBasic版を採用することで、見た目、操作性を保ちました。結果、操作の説明

や研修を開く必要はありませんでしたが、最新版でうまく稼働しないアプリケーションについては担当者2人で1カ月かかって修正しました。

今後は、Standard版の可能性に期待しており、一部のパワー・ユーザーで使い始めていますので、楽しみです。

丸山 エンド・ユーザーは、いままで感じていた不便さがなくなったことはわかっても、バージョンアップされたとは感じていないのではないのでしょうか。マイグレーションはドラスティックに変わればよいわけではない、という見本みたいなプロジェクトでしたね。

Lotus Notesの新機能を活用し、 住民向けサービスを強化したい

——今回のリプレースを通して、新たにチャレンジしたのはどんな点でしょうか。

丸山 プロジェクトでは、クラウド環境上のIBM LotusLive Connectionsを使って、SNS的に情報を共有して進めました。場所が離れているというロケーションの課題をクリアするという目的もありましたが、こうした情報共有のやり方を体感してもらって、次に生かしてほしいという狙いもありましたね。

菅原 今のところベンダーもシステムもほぼ満点ですが、新しいLotus Notesとしての活用はこれからです。特にRSS配信機能を組み込んだり、住民向けの使い勝手のよいサイトを作ることができるWeb技術であるXPagesの活用を考えたいと思っています。内向きのアプリケーションはある程度できていますから、これからはよりいっそう住民向けのサービスを充実させていきたいですね。

丸山 XPagesをベースに部品の再利用を進めることで、住民が活用できるサイトも簡単に構築できるはずですよ。

菅原 Lotus Notesを使って独自のブログの運営もできるのではないかと考えています。そうなれば必要な情報を早く届けられまし、役場をさらに身近な存在として感じてもらえると思います。

——この宮代町役場の木造の庁舎はとても素敵ですし、地元のお店情報を満載したタウン誌も発行されていて、住みやすい町作り



株式会社大塚商会
マーケティング本部
プロダクトプロモーション部 課長
丸山 義夫氏

に一生懸命取り組んでいるのがよくわかりました。こうした"マチ"ならでの良さを生み出すために、最先端の技術を使っているところがすごいですね。これからもLotus Notesを活用して新しいことに挑戦してってください。楽しみにしています。

導入製品

- IBM Lotus Notes/Domino



日本アイビーエム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2010

All Rights Reserved

06-10 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.com、LotusおよびLotus Notes、LotusLiveは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2010年9月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。